

教材名 魚釣りゲーム	授業名 グループ学習	
小学部		
写真（教材、使用場面など）		
	 <p data-bbox="638 488 909 533">多い・少ないカード</p>	
ねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が釣った魚と、友だちや教師が釣った魚を見比べて、どちらが「多い・少ない」かを答えられるようになる。 ・教師から指定された色の魚や数を釣る。 		
工夫した点		
<ul style="list-style-type: none"> ・まず、初めのうちは楽しいと思ってもらえるように、釣る魚を指定せず、タイマーが鳴るまで、自由に釣る。魚釣りということで、ブルーシートを下に敷き、海に見立てた。 ・慣れてきたところで、児童の実態に応じて、 <ul style="list-style-type: none"> ①声かけて釣る魚の色を伝える。 ②視覚的に、釣る魚の色を提示する。 ③釣る魚の数を指定する。（～5匹まで） ・自分が釣った魚が入ったかごと、教師が釣った魚が入ったかごを見比べて、「多い・少ない」を答えるのは、すぐ見比べて答えられる児童がいる一方、発声が難しかったり、教師からの「どっちが多い？少ない？」の質問の意図を捉えることが難しい児童がいたため、その児童用に、たくさん魚がいるカード（おい）と1匹だけいる魚カード（すくない）を渡し、魚が入ったかごに入れるようにした。 		
活用方法及び児童生徒の様子		
<ul style="list-style-type: none"> ・活動に興味を持ち、名前を呼ばれると、すぐに前に来ていた。 ・指定した色の魚を全て釣り終わると、「できました」「ありません」などと教師に伝えることができていた。 ・「多い・少ない」を分かりやすくするために、少ない方の魚は、1匹だけにしたことで、比較がしやすく間違わず答えられるようになった。だが、少ない方の魚の量を少し増やすと、間違える児童が多かった。 ・準備（ブルーシートを敷く、魚を置く）や片付けもみんな協力して行った。 		
その他（材料、作成費用、購入先など）		
画用紙・ラミネート（魚）、たこ糸、割り箸（釣りざお）、ブルーシート		